

1-5 指標種調査結果(2×2m コドラート目視観察)

調査地点は、指標種調査 168 地点とヨシ原調査 25 地点の計 193 地点である。

調査地点の内訳は、河口干潟が指標種調査 108 地点とヨシ原調査 14 地点の計 122 地点である。住吉干潟は、指標種調査 60 地点とヨシ原調査 11 地点の計 71 地点である。

現地調査は、6月 - 7月調査として、平成 18 年 6 月 23 日～平成 18 年 6 月 25 日、平成 18 年 7 月 26 日～平成 18 年 7 月 29 日、平成 18 年 7 月 31 日に実施した。6 月の調査日は、曇天で、カニ類の行動が活発でなかったため、表在性貝類のみを対象とした。後の快晴日を待って、表在性カニ類を対象とした調査を実施した。

9 月 - 10 月調査は、平成 18 年 9 月 20～22 日、10 月 4、6、7 日に実施した。また、平成 18 年度の第一回アドバイザー会議(H18.8.18)のなかで発生した大型海藻の有無を各コドラートで調べたが、大型海藻の生育は確認できなかった。

表 1-5-1 底生動物の指標種(平成 18 年 6 月現在)

表在性種	カニ類	シオマネキ、ハクセンシオマネキ、コメツキガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニ、オサガニ
	貝類	フトヘナタリガイ、ヒロクチカノコガイ、ホソウミノナ、ヘナタリガイ
	多毛類	ムギワラムシ(棲管)、スゴカイイソメ(棲管)
埋在性種	貝類	ハマグリ、イソシジミ、ソトオリガイ
	多毛類	イトメ
上位種	ガザミ類：海底部へのカニ籠設置による採取。	

ここでは、上記した指標種のうち、主に表在性カニ類・貝類・多毛類(棲管)の 12 種についてまとめる。

1-5-1 6月 - 7月調査結果の概要(6月に貝類と多毛類、7月にカニ類)

河口干潟では、全 122 地点中 80 地点において 14 種 9,643 個体を確認した。

住吉干潟では、全 71 地点中 63 地点において、7 種 10,329 個体を確認した。

全域では、全 193 地点中 143 地点において、15 種 19,972 個体を確認した。

河口干潟のみで確認したものは、スゴカイイソメ(棲管)、ムギワラムシ(棲管)、ヘナタリ、ホソウミニナ、オサガニである。住吉干潟のみで確認したものは、ヤマトオサガニである。

河口干潟の底質は概ね砂質であり、住吉干潟の底質は概ね砂泥質である。両干潟の生息環境の違いが生物相に変化をもたらしていると考えられる。

表 1-5-2 指標種調査総括表(6月 - 7月調査)

No.	分類群	出現生物	平成18年6月 - 7月					
			河口干潟		住吉干潟		計	
			122地点		71地点		193地点	
			確認 地点数	確認 個体数	確認 地点数	確認 個体数	確認 地点数	確認 個体数
1	多毛類	スゴカイイソメ(棲管)	1	1			1	1
2		ムギワラムシ(棲管)	13	32			13	32
		小計	15	33			15	33
3	腹足類	ヒロクチカノコ	6	74	20	374	26	448
4		ヘナタリガイ	12	303			12	303
5		フトヘナタリガイ	17	1,016	2	19	19	1,035
6		ホソウミニナ	4	27			4	27
		小計	26	1,420	20	393	46	1,813
7	二枚貝類	イソシジミ	1	1			1	1
8		ハマグリ属	4	7			4	7
9		ソトオリガイ	3	3			3	3
		小計	9	11			9	11
10	カニ類	シオマネキ	10	62	28	1,171	38	1,233
11		ハクセンシオマネキ	7	255	13	231	20	486
12		コメツキガニ	48	6,737	10	898	58	7,635
13		チゴガニ	10	1,110	37	5,289	47	6,399
14		オサガニ	6	15			6	15
15		ヤマトオサガニ			30	2,347	30	2,347
		小計	61	8,179	63	9,936	124	18,115
		合計	80	9,643	63	10,329	143	19,972

河口干潟			
個体数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )			
シオマネキ( )			
シオマネキ(不明)		21	41
ハクセンシオマネキ( )		68	50
ハクセンシオマネキ( )		25	47
ハクセンシオマネキ(不明)		33	32
ヤマトオサガニ			
地点数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )			
シオマネキ( )			
シオマネキ(不明)		7	8
ハクセンシオマネキ( )		4	3
ハクセンシオマネキ( )		3	4
ハクセンシオマネキ(不明)		1	3
ヤマトオサガニ			

住吉干潟			
個体数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	38	2	1
シオマネキ( )	3	3	
シオマネキ(不明)		602	522
ハクセンシオマネキ( )		96	44
ハクセンシオマネキ( )		50	39
ハクセンシオマネキ(不明)		2	
ヤマトオサガニ	2347		
地点数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	11	2	1
シオマネキ( )	2	3	
シオマネキ(不明)		16	16
ハクセンシオマネキ( )		9	8
ハクセンシオマネキ( )		8	8
ハクセンシオマネキ(不明)		1	
ヤマトオサガニ	30		

注1. カニ類の一部は甲幅の大きさによりサイズを分けて観察した。大・中・小の区分は、表1-4-2(P.3-5-10)のとおりである。

注2. シオマネキ、ハクセンシオマネキに関しては、大きさの区分に加え、雌雄も区別して観察を行った。

注3. 二枚貝類は、主に地表面上に分布していたもので、当地の実態を示す数字ではない。

1-5-2 9月 - 10月調査結果の概要

河口干潟では、全 122 地点中 80 地点において 10 種 18,851 個体を確認した。

住吉干潟では、全 71 地点中 63 地点において、9 種 16,718 個体を確認した。

全域では、全 193 地点中 143 地点において、12 種 35,569 個体を確認した。

河口干潟のみで確認したものは、ムギワラムシ(棲管)、ヘナタリ、ホソウミニナである。住吉干潟のみで確認したものは、ヤマトオサガニである。スゴカイイソメ(棲管)とオサガニは確認できなかった。

春期同様、河口干潟の底質は概ね砂質であり、住吉干潟の底質は概ね砂泥質である。両干潟の生息環境の違いが生物相に変化をもたらしていると考えられる。

表 1-5-3 指標種調査総括表(9月 - 10月調査)

No.	分類群	出現生物	平成18年9月 - 10月					
			河口干潟		住吉干潟		計	
			122地点		71地点		193地点	
			確認 地点数	確認 個体数	確認 地点数	確認 個体数	確認 地点数	確認 個体数
1	多毛類	スゴカイイソメ(棲管)						
2		ムギワラムシ(棲管)	2	4			2	4
		小計	2	4			2	4
3	腹足類	ヒロクチカノコ	5	16	14	276	19	292
4		ヘナタリガイ	4	148			4	148
5		フトヘナタリガイ	14	1,202	3	12	17	1,214
6		ホソウミニナ	2	7			2	7
		小計	17	1,373	14	288	31	1,661
7	二枚貝類	イソシジミ						
8		ハマグリ属	1	1	1	1	2	2
9		ソトオリガイ			2	2	2	2
		小計	3	1	4	3	7	4
10	カニ類	シオマネキ	11	224	28	1,754	39	1,978
11		ハクセンシオマネキ	5	98	6	208	11	306
12		コメツキガニ	58	15,235	9	3,853	67	19,088
13		チゴガニ	8	1,916	32	6,486	40	8,402
14		オサガニ						
15		ヤマトオサガニ			22	4,126	22	4,126
		小計	70	17,473	63	16,427	133	33,900
		合計	73	18,851	63	16,718	136	35,569

河口干潟			
個体数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	5	1	1
シオマネキ( )	8		
シオマネキ(不明)		83	126
ハクセンシオマネキ( )		11	42
ハクセンシオマネキ( )		12	33
ハクセンシオマネキ(不明)			
ヤマトオサガニ			
地点数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	1	1	1
シオマネキ( )	2		
シオマネキ(不明)		9	10
ハクセンシオマネキ( )		3	3
ハクセンシオマネキ( )		3	4
ハクセンシオマネキ(不明)			
ヤマトオサガニ			

住吉干潟			
個体数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	97	38	17
シオマネキ( )	17	37	9
シオマネキ(不明)		863	676
ハクセンシオマネキ( )		63	8
ハクセンシオマネキ( )		39	1
ハクセンシオマネキ(不明)		96	1
ヤマトオサガニ	4359		
地点数			
種名	区分		
	大	中	小
シオマネキ( )	17	12	8
シオマネキ( )	12	13	4
シオマネキ(不明)		21	21
ハクセンシオマネキ( )		5	3
ハクセンシオマネキ( )		5	1
ハクセンシオマネキ(不明)		2	1
ヤマトオサガニ	23		

注1. カニ類の一部は殻幅の大きさによりサイズを分けて観察した。大・中・小の区分は、表1-4-2(P.3-5-10)のとおりである。

注2. シオマネキ、ハクセンシオマネキに関しては、大きさの区分に加え、雌雄も区別して観察を行った。

注3. 二枚貝類は、主に地表面上に分布していたもので、当地の実態を示す数字ではない。

表 1-5-4 確認された指標種の概要

種 名	河口干潟	住吉干潟
シオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央の広いヨシ原内で確認された。</li> <li>・確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中州の南側と岸部のヨシ原内やその周辺の泥域で確認された。</li> <li>・確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
ハクセンシオマネキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に干潟中央のヨシ帯縁部で確認された。</li> <li>・確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中州の南側と岸部ヨシ原の北縁部で多く確認された。</li> <li>・確認した個体群の構成は、雌雄混在、大小混在であり、小さい個体のみで構成された等の特異的な個体群は確認されていない。</li> </ul>
コメツキガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮間帯の裸地部において広範囲にわたり確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中州北～東側の潮間帯と岸部ヨシ原の北～北東側の潮間帯において比較的広範囲に確認された。</li> <li>・7月の調査では中州北西側でも分布が確認されたが、10月の調査では確認されなかった。</li> </ul>
チゴガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原内やその周辺で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中州ヨシ原の南縁部と岸部のヨシ原内なその周辺で分布が確認された。</li> </ul>
ヤマトオサガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原内やその周辺で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住吉干潟の中央付近や右岸側干潟のヨシ原内やその周辺部で広範囲に確認された。</li> </ul>
オサガニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の調査で南側の潮間帯で局所的に確認されたのみで、10月の調査では分布が確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分布は確認されなかった。</li> </ul>
フトヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原内やその周辺部で広範囲に分布が確認された。</li> <li>・7月の調査では裸地部の潮間帯でも広く確認されたが、10月の調査では確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岸部ヨシ原の南西部で分布が確認された。</li> </ul>
ヒロクチカノコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原内の中央～東側で比較的広範囲に確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岸部のヨシ原内で広範囲に分布が確認された。</li> <li>・6月の調査では中州ヨシ原の南縁でも局所的に分布が確認されたが、10月の調査では確認されなかった。</li> </ul>
ホソウミニナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原東側の潮間帯で分布が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分布は確認されなかった。</li> </ul>
ヘナタリガイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟中央のヨシ原内で広範囲に確認された。</li> <li>・6月の調査時と比較すると、10月の調査時は分布範囲が大幅に減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分布は確認されなかった。</li> </ul>

航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

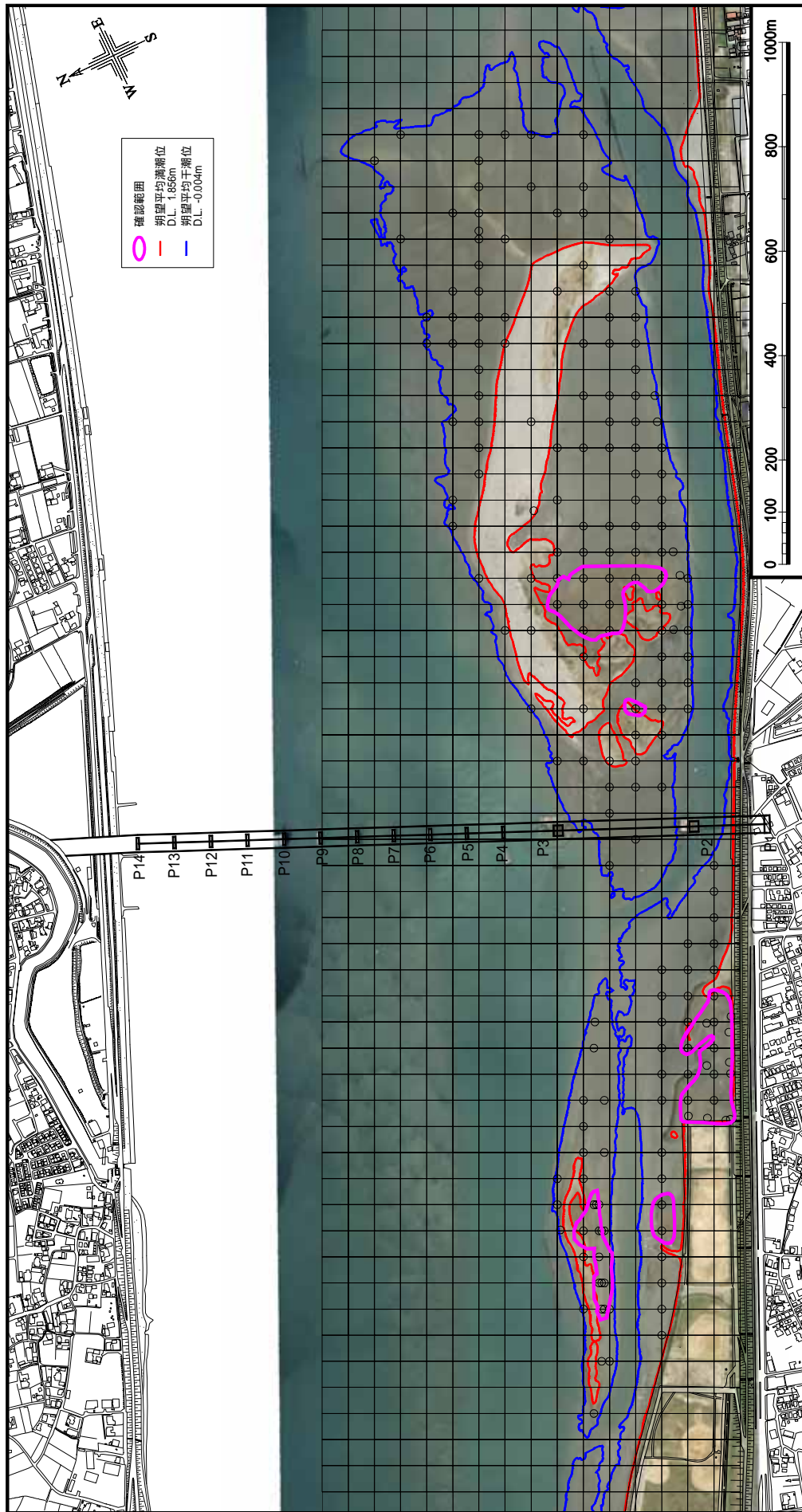


図 1-5-1 シオマネキ (7 月)

航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

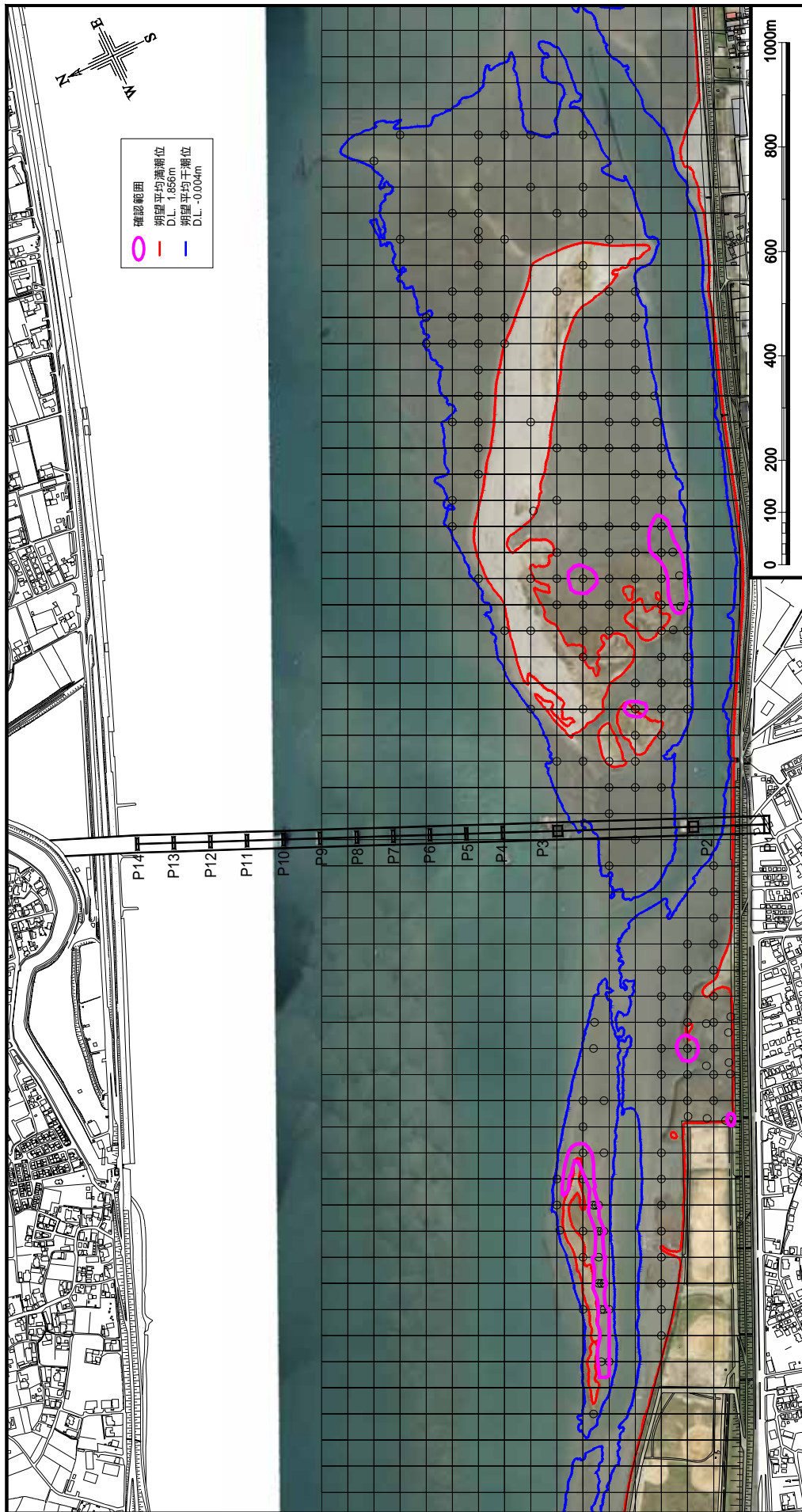


図 1-5-2 ハクセンシオマネキ分布図(7月)



航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

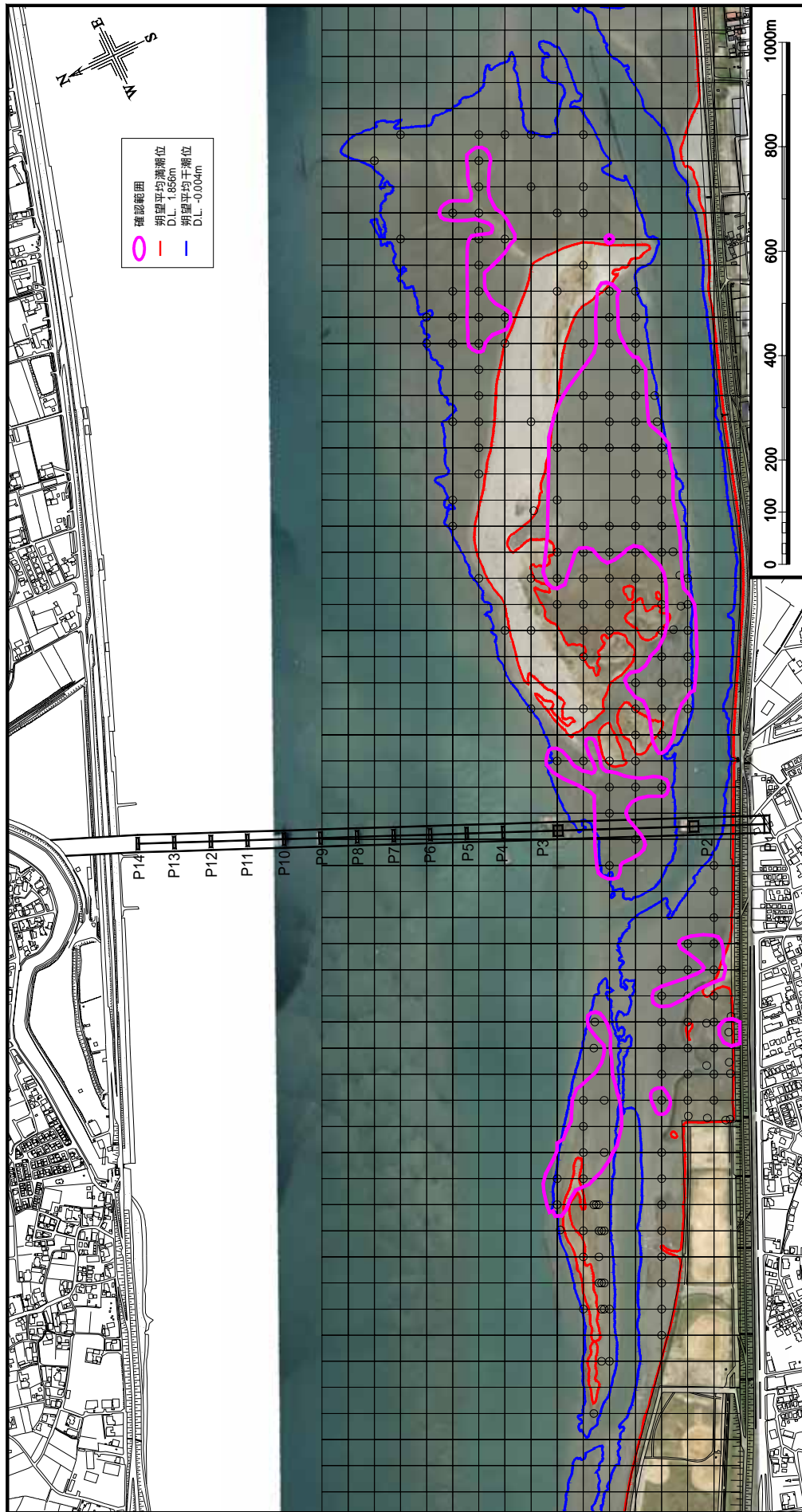


図 1-5-3 コメツキガニ分布図(7月)

航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

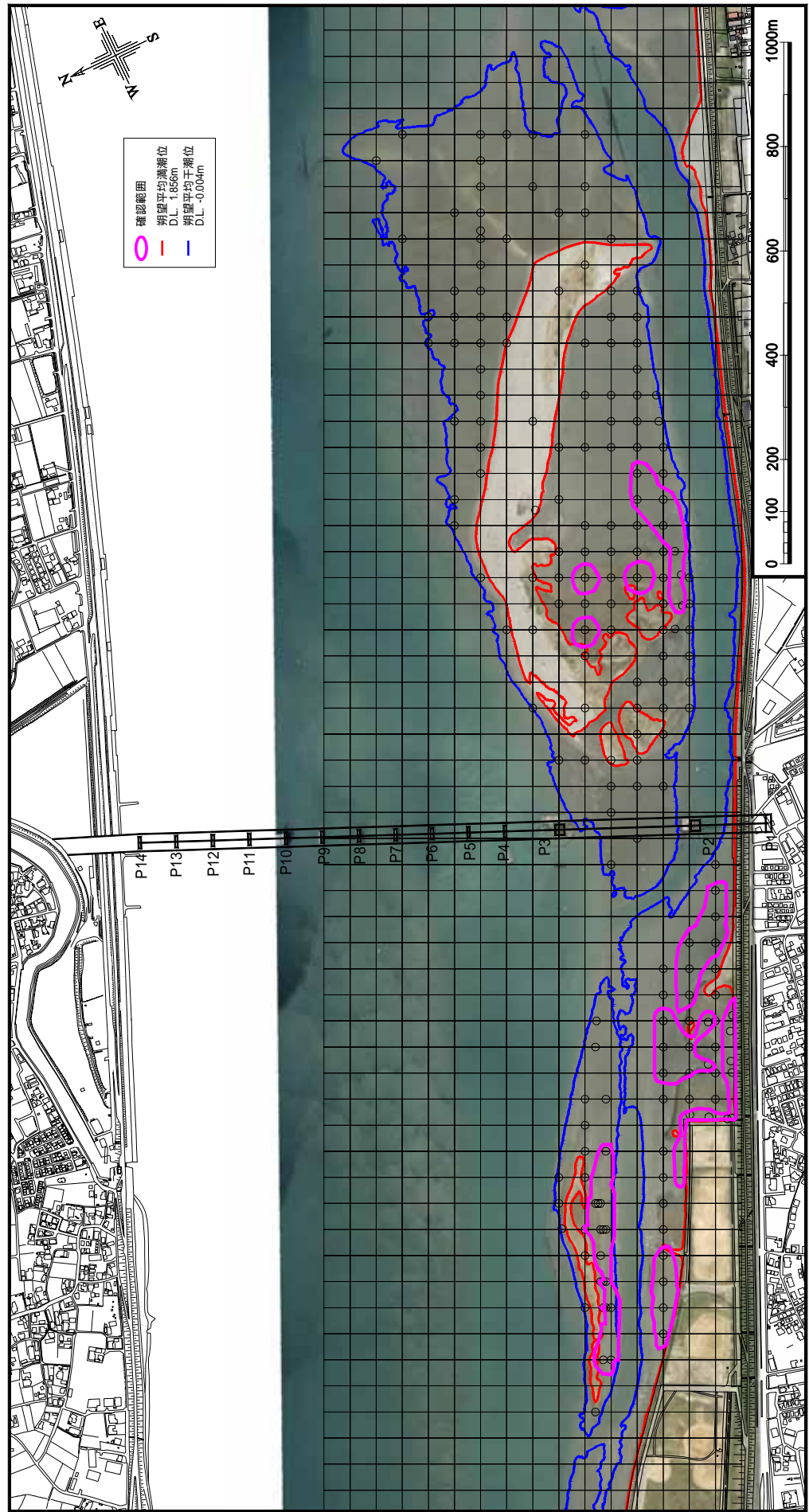


図 1-5-4 子ゴガ二分布図(7月)



航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

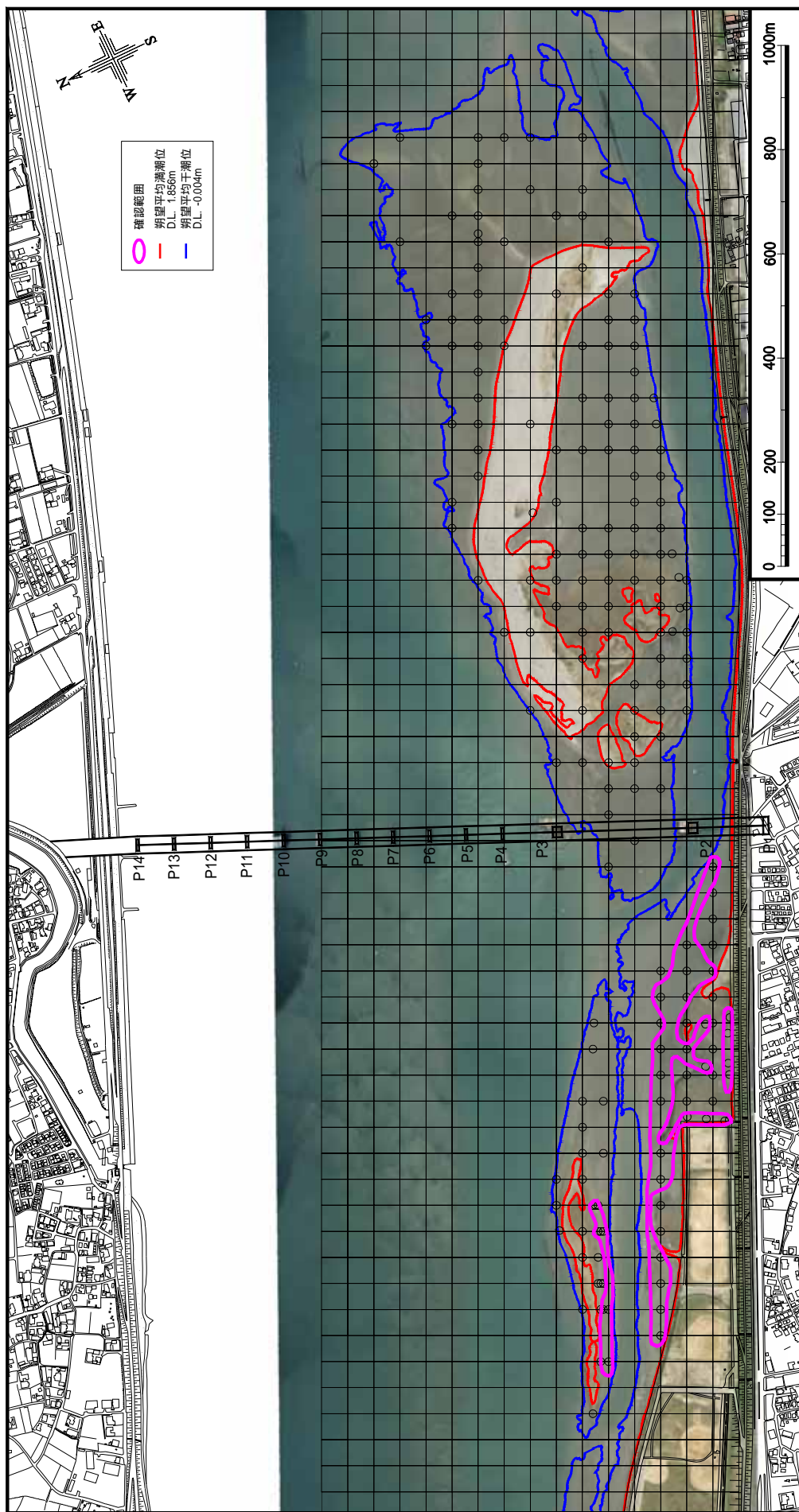


図 1-5-5 ヤマトオサガニ分布図(7月)

航空写真 平成 18 年 4 月 1 日撮影

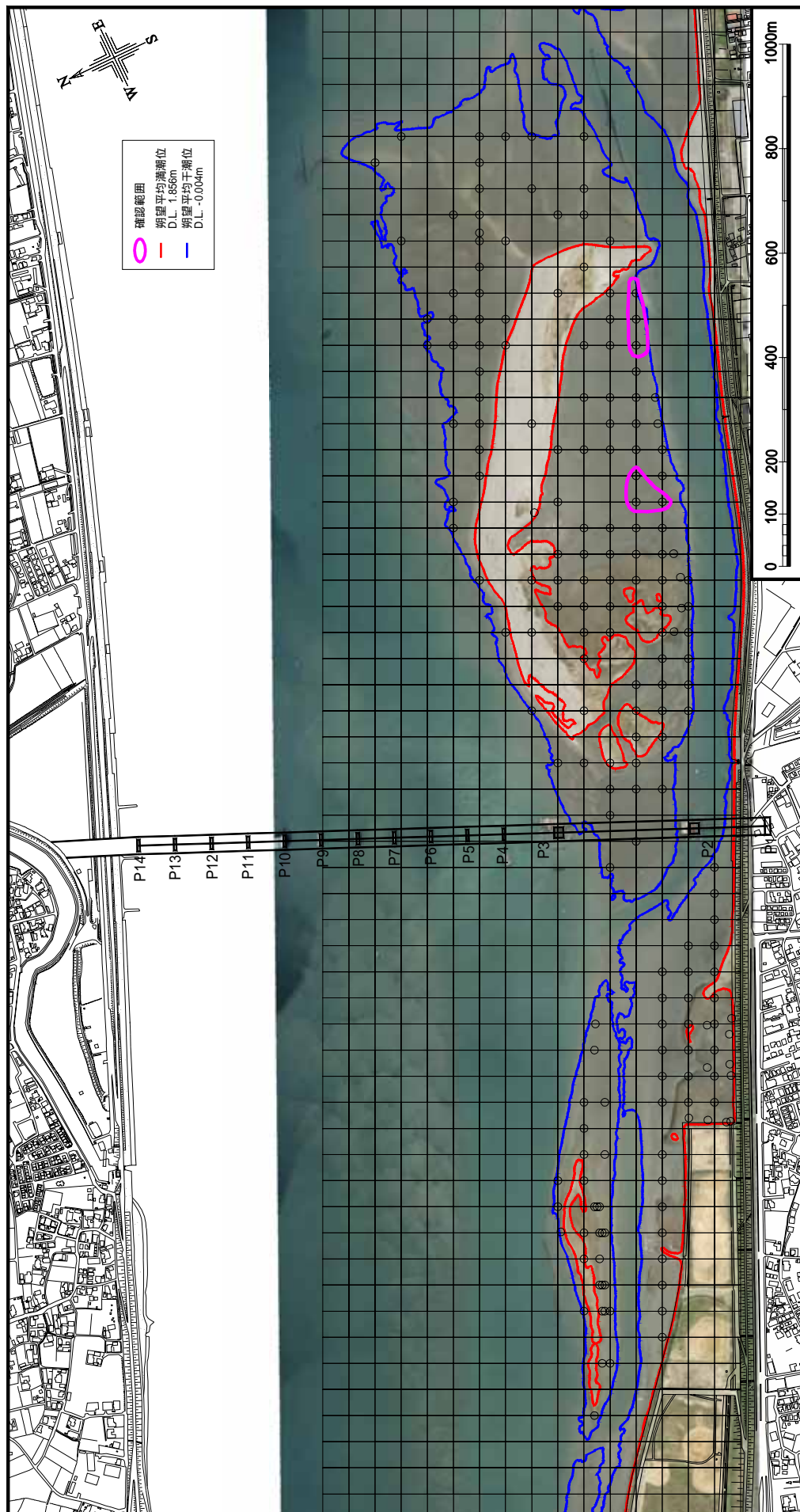


図 1-5-6 オサガ二分分布図(7月)